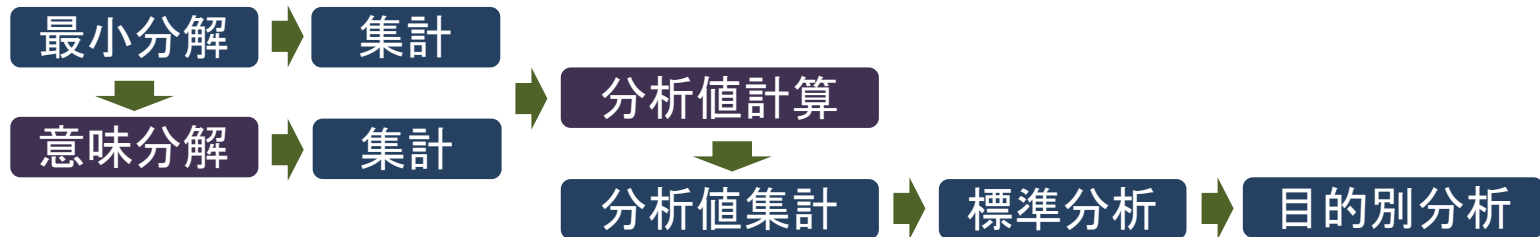


いかに分析するか

基準となる『はかり』がなければ分析のしようがなく、基準がなければ仮説を設けるしかない。仮説はどこまでも仮説で、実証されなければ実践では活用できない。すべての仮説が実証されるとは限らず、実証できた範囲から実践し、データ収集を繰り返しながら、実証範囲を広げていく。

分析する工程



●品詞単位、単語単位、活用単位、用言活用単位、複合単語、類語、反意語単位での分解とそれぞれの区分別の集計を行う。

●1文章の文字数、ひらがな、漢字、カタカナ、アルファベットでの文字数が、文章によって異なるので、計算上、1単語の文字数を標準化する。

●分析値は、異なる文章で同じ基準で比較できる数値にしなければならない。

●分析項目が異なっても分析値が同じ基準になっていなければならない。

●1言語での統一基準、表現ジャンル別基準、1文章文字量区分での基準などがあり、基準同士での比較ができない。

●分析値、表現スタイル、趣旨、キーワード群、表現難易度、主張姿勢とレベル、言語表現としての適正などが、基本分析となる。

●目的に応じて、分解、分析の組み合わせ、分析表見が変わる。

「文字データ分析対象と分類」で表されている項目などによって、標準分析を踏まえたうえで、処理形式が変わる。